

# 120年の軌跡

11

このコーナーでは、宇都宮の120年の歩みを年表と写真で紹介します。

## 平成7年～平成28年



◀ろまんちっく村 温泉の余熱を利用したフラワードームや四季の森、味の広場、地ビールレストランや農産物直売所などを備え、余暇活動の場、農林業体験ができる施設として新里町にオープン。

### 宇都宮市年表

西暦	年	主な出来事
1995	7	▽第10回国民文化祭を開催
1996	8	▽市制100周年記念式典・記念事業を開催 ▽中核市に移行
1997	9	▽ろまんちっく村が開園 ▽宇都宮美術館が開館
1998	10	▽市ホームページを開設
2002	14	▽完全学校週5日制を開始
2006	18	▽市制110周年を迎える
2007	19	▽上河内町と河内町を編入し、人口50万人に到達 ▽宇都宮城址公園がオープン ▽第1回もつたいない全国大会を開催
2009	21	▽ごみ回収が5種13分別に拡大
2011	23	▽全国スポーツレクリエーション祭を開催
2012	24	▽小中一貫教育が始まる
2014	26	▽ねんりんピック栃木2014を開催
2016	28	▽市制120周年・合併10周年を迎える



▶宇都宮美術館 国内外の20世紀を中心とした多様な美術作品を集展示する施設。新たな文化の拠点として、長岡町にオープンしました。

# はつらっ宮っこ

今、輝いている市民

試行錯誤し生み出したレシピで

農林水産大臣賞受賞

宇都宮大学 浜田 亜紀さん



写真提供 JF全漁連

▲受賞作品の「紅茶のサツパリかば焼き丼(左)と「エビしんじょ」。エビしんじょは、魚のすり身の代わりにはんぺんを使用し、焼き肉のたれで味付けることで手間を省きました。

第17回シーフード料理コンテストの「お魚料理チャレンジ部門」で、全国1433作品の応募の中、最高賞の農林水産大臣賞を受賞した浜田さん。「誰でも簡単に作れるだけでなく、目を引く料理を意識した。自分で考えたレシピが評価してもらえてうれしい」と振り返ります。

「昔から、何においても自分で考え、新しく作り出すことが好き」と話す浜田さん。考案した「紅茶のサツパリかば焼き丼」では、苦手とする人が多い魚の「生臭さ」を、手間をかけ



ずに解消できればと試行錯誤。「紅茶にたどり着いた時にはやったと思つた」と、魚の臭み消しだけでなく、ご飯の風味付けとしても紅茶を活用し、獨創性などで高い評価を受けました。浜田さんが選んだ就職先は、データ分析から製作、パッケージデザインなどすべて自分で手掛けることができる新潟県の製菓会社。「地元を離れる不安もあるが好きなきがができるワクワクも大きい。離れて暮らす両親や親戚に届くようなヒット商品を作りたい」と、豊かな創造力を武器に未来へ走り出します。